

2013. 4. 1

拡張現実の概念を利用した付加価値ある印刷物の提供サービスを開始いたしました。

岐阜文芸社では、拡張現実の概念を利用した付加価値ある印刷物の提供サービスを開始いたしました。マーカー型の AR(Augmented Reality)技術を導入し、誌面に掲載する画像にスマホやタブレットのカメラをかざすと動画や音声再生されたり電子ブックを閲覧することができるようになります。これにより、誌面では掲載できる情報が限られていましたが、より多くの情報を印刷物が窓口となり伝えることができるようになります。

AR 技術は大きく分けるとコード等をカメラで認識させて現実の世界を拡張させるマーカー型と、位置情報をもとに拡張させる空間型がありますが、当社が採用した技術は、マーカー型でも画像を認識するタイプとなります。コード認識にマーカー型においては、特定のコードを印刷する必要がありましたが、画像認識のマーカー型においては、写真やマークなどの画像そのものを認識コードと設定することで、誌面のデザイン性を損なうことなく簡単に埋め込むことができます。また、既に印刷物として出来上がったものに掲載の画像も後からマーカーとして設定が出来ます。

具体的に、画像認識する専用アプリでコンサートポスターの画像をかざすとその動画が流れたり、関連サイトへリンクさせたりできるため、より詳細な情報を伝えることができます。

今後、“音”や”動き”を伝えられるポスター、動画メッセージを埋め込んだハガキなど、利用用途を拡大していきます。

お問い合わせ

株式会社岐阜文芸社

企画営業グループ

TEL058-229-6088